

第1回教育委員会（定例）議事録

- 1 開 会
令和4年4月20日（水） 14時00分
- 2 場 所
市役所第2庁舎3階 2-301・302会議室
- 3 会議に出席した委員
教育長 丹後 政俊
委 員 西田 正志
委 員 中村 貴子
委 員 垣内 敬造
委 員 山本 恭子
- 4 会議に出席した職員
学校教育部長 西羅 忠和
こども未来部長 稲山 悟
社会教育部長 小林 康弘
学校教育次長 岸田 幸雄
こども未来次長兼保育教育課長 西嶋 睦美
教育総務課長 中野 悟
学校教育課長 浅田 智広
学 事 課 長 山本 毅
教育研究所長 大野 圭一
東部学校給食センター所長 石田 哲也
西部学校給食センター所長 齋藤 昭
子育て企画課長 竹見 朋子
社会教育課長 谷掛 昭二
文化財課長 村上 由樹
中央図書館長 小島 理三
田園交響ホール館長 酒井 直隆
総 務 課 長 河南 剛
中央公民館長 大路 和浩
教育総務課係長 田中 真紀子
- 5 議事日程及び議案
別紙の通り
- 6 開会宣言
14時25分
- 7 会 期
(自) 令和4年4月20日
(至) 令和4年4月20日 1日間
- 8 会議録署名委員名簿
西田 正志委員
- 9 閉 会
16時14分

丹後教育長 全委員 丹後教育長	日程第 1、令和 3 年度第 16 回会議録の報告、承認について意見等はないか。 異議なし。 全員異議なしで、会議録をこのとおり承認する。
丹後教育長	日程第 2、会議録署名委員は 1 番西田正志委員とする。
丹後教育長	日程第 3、会期は令和 4 年 4 月 20 日、本日 1 日間とする。
丹後教育長	日程第 4、議案に移る。議案第 1 号「丹波篠山市スポーツ推進委員の委嘱について」社会教育課説明を求める。
谷掛課長	《議案書に基づき説明》
山本委員	男女比率も前年度と同等であるなど、説明を聞いて偏りなく人選がされていると感じる。今回初めて委員候補となっている前川さんは、主にどこの地域で活動されているのか。
谷掛課長	桶ツト卓球、“道”というサークルに所属されており、市内全域で活動されている。桶ツト卓球を通じて活動されていることと、チーム“道”自体は、ニュースポーツであるモルックの普及活動もされており、前川さんもその活動に携わっておられると聞いている。
山本委員	特定の地域ではなく、市内全域で活動をされているということか。
谷掛課長	そのとおりである。
西田委員	スポーツ推進委員の報酬はいくらか。
谷掛課長	謝金として 1 回の活動に 4,000 円支給している。
丹後教育長	議案第 1 号「丹波篠山市スポーツ推進委員の委嘱について」採決をする。 異議はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員賛成で、議案第 1 号「丹波篠山市スポーツ推進委員の委嘱について」原案どおり可決する。
丹後教育長	議案第 2 号、「『令和 4 年度丹波篠山の教育』の追加について」教育総務課説明を求める。
中野課長	《議案書に基づき説明》
西田委員	今回「令和 4 年度丹波篠山の教育」に追加しようとしている事業については、教育委員自身も学習が必要であるので、学習会を設けてほしい。 「(8)赤ちゃんの駅設置事業の実施」について、「②おむつ替えや授乳ができる設備等を設置又は充実する事業所に対して、補助金を交付し」とあるが、

竹見課長 垣内委員	補助の実績と補助金額について説明を求める。 令和3年度末実績で30施設の登録がある。補助金額は上限10万円である。 「(9)篠山チルドレンズミュージアムの管理運営」について、「1-4子ども・子育て支援の体制づくり」の中での追記となるので当然かと思うが、目的・目標及び①から④の記載について、子育て関係についてのみ記載されている。ただ、これまでの篠山チルドレンズミュージアムの目的には、地域博物館として、地域との協力関係に取り組んだり、市外へ向けてのブランド化等にも取り組んできた。社会教育施設としての目標を掲げなくてもいいのか。
中野課長	社会教育的な活動が実際あるので、表記については再度事務局内で検討する。
垣内委員	目標にないということは、目標に対して頑張っていることに対する評価もできないということにもつながるので、追記について検討してほしい。
西田委員	「(11)おとわの森子育てママフィールド『プティプリ』の運営支援」について、ママだけが対象ではないと理解できるような、ジェンダーフリーを意識した表現に改めることを求める。
中野課長	事務局内で検討し修正をする。
丹後教育長	「(9)篠山チルドレンズミュージアムの管理運営」及び「(11)おとわの森子育てママフィールド『プティプリ』の運営支援」については、事務局で検討して文言修正をすることを踏まえたうえで、基本的な追加事項について採決をする。
全委員	議案第2号、「『令和4年度丹波篠山の教育』の追加について」、一部文言修正はするが、基本的方向について採決をする。異議はないか。
丹後教育長	異議なし。 全員賛成で、議案第2号、「『令和4年度丹波篠山の教育』の追加について」一部文言修正はするが、基本的方向について可決する。
丹後教育長	日程第5、承認に移る。承認第1号、「令和4年度補正予算（第1号）案の市長への提案について」教育総務課説明を求める。
中野課長	《議案書に基づき説明》
垣内委員	3月定例教育委員会及び臨時教育委員会に間に合わなかった理由の説明を求める。
山本課長	指導者用コンピュータ端末整備は、市長部局から4月、5月議会に上程と聞いていたが、急遽4月12日議会で上程することになったので専決処理をした。
垣内委員 山本課長 中村委員	事業開始が予定より前倒しになったということか。 そのとおりである。 国の制度が示されて以降、教育委員会に間に合わなかったとのことである

山本課長 竹見課長	<p>が、多額な予算であるのでもう少し計画的に実施していただきたい。</p> <p>2月1日に国から依頼があり、精査の過程で時間を要した。</p> <p>子育て企画課、保育教育課の部分については、12月下旬から感染力の強いオミクロン株が発生し、感染力は空気感染や飛沫感染が高いということから、2月4日に国新型コロナウイルス感染症対策分科会から、オミクロン株の特徴を踏まえた感染防止策が公表された。これにより、今回導入を予定している空気清浄機を導入することにより感染防止ができるということが推奨されたので、この時期での導入に至った。</p>
西田委員	<p>コロナ対策費で充当すると説明があったが、とりあえず一般財源で支出し、後から充当するということか。</p>
竹見課長	<p>財源は、100%国庫補助新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が充てられる予定である。</p>
西羅部長	<p>4月12日議会に上程される補正予算は、総額2億5千万円の国庫補助新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充てるもので、マイナンバーカードの普及や経済支援がウエイトを占めている。この交付金は、地域の実状に応じた事業に充当をしていくものであり、その充当先は多岐に渡っている。本来であれば国庫交付金として充てるわけであるが、あまりに多様な事業に充てることになるので、市のルールとしてコロナ交付金は一般財源扱いとし、この議案書にも一般財源と記載している。</p>
丹後教育長	<p>承認第1号の「令和4年度補正予算（第1号）案の市長への提案について」承認することに異議はないか。</p>
全委員	<p>異議なし。</p>
丹後教育長	<p>全員賛成で、承認第1号の「令和4年度補正予算（第1号）案の市長への提案について」を承認する。</p> <p>審議のなかでいただいた、「やむを得ない事情があるときを除いて、できるだけ教育委員会に議案として提出することが間に合うように」、というご意見については十分留意する。</p>
丹後教育長	<p>日程第6、報告事項に移る。報告1「寄附採納について」教育総務課報告を求めらる。</p>
田中係長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
丹後教育長	<p>報告2「後援名義の承認について」教育総務課報告を求めらる。</p>
田中係長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
西田委員	<p>No.2「第57回兵庫県スポーツ祭典」とはどのような事業なのか。</p>
田中係長	<p>後援名義は4月22日～令和5年3月31日までとなっているが、実際は、4</p>

	<p>月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日までの申請書が提出された。申請は承認希望日の 30 日前までという規定が守られていなかったもので、4 月 22 日からとなった。県内で、サッカー、バドミントン、バレーボール、卓球、テニス、野球、登山、陸上、スキー、空手の大会が実施され、本市では 6 月 19 日、丹波篠山総合スポーツセンターで卓球大会が開催される。</p> <p>各種スポーツ普及と向上、参加機会の充実を目的に開催されている事業であり、本市教育委員会でも毎年後援名義の承認をしている。</p>
丹後教育長	<p>報告 3「令和 3 年度丹波篠山市学校運営協議会の総括について」教育研究所説明を求める。</p>
大野所長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
中村委員	<p>学校により、第 1 回目の協議会開催日が 4 月 26 日～6 月 24 日と開きがあり、この差は何かなと感じた。方向性を決めてより早く始動するには、第 1 回目の会議はより早い開催の方が良い影響になると思う。</p> <p>安全点検についてであるが、報告にあるように毎年運営協議会委員の方や PTA 役員で危険個所の改善が成されている。にも関わらず、新聞発表で丹波篠山市が危険個所が突出して多かったのはどういうことなのか説明を求める。</p> <p>各学校、コロナ禍においても活動方法や内容を工夫され、ふるさと教育が実施されている。どういった内容に変更されての実施だったのか具体的な内容明記が欲しかった。なぜなら、他の校区と比較出来たり、違う観点から地域を考える学びの機会になるからである。貴重な意見を大切にとりあげてほしい。</p> <p>最後をお願いであるが、そもそも、ふるさと教育は何を身につけるために実施するのか。地域と共にどんな子どもを育てるのか、学校・地域・保護者間での熟議を引き続き期待している。</p>
大野所長	<p>第 1 回開催日については正確に把握はできていないが、4 月の参観日や学級懇談日と合わせて学校運営協議会を開催している学校もある。コロナの状況で参観日実施の可否決定の遅れにより、日程が遅れた部分もあるかと思う。また正確に把握をする。</p> <p>安全点検については、学校運営協議会では校内安全点検をしていることが主であり、報道された安全点検は、通学路の安全点検について丹波地区が多いという記事であった。学校から離れた場所の安全点検について、どこまで学校運営協議会とともに点検されているのかについては、詳細を確認し改めて回答する。</p> <p>コロナ禍でのふるさと教育の実施について、各学校どのように内容を変更されての実施だったかについてである。昨年度 1 月にコミュニティ・スクール研修会を実施した。その際、多紀小学校、篠山中学校から具体的な実践内</p>

中村委員	<p>容について各 30 分程度発表し、オンラインで各学校の運営協議会委員の皆さんにも視聴いただいた。それぞれの学校が地域の特色やオンラインを活用した取組を発表いただき、他校からも非常に参考になったとの意見もあった。</p> <p>安全点検について、学校通学路は、新年度早々に PTA 交通委員が子どもと一緒に安全点検を行って学校に報告書を提出しているはずである。提出された内容は細かく丁寧に対応していただきたい。</p>
山本課長	<p>通学路安全点検については昨年度学事課で対応した。学校に危険個所を問い合わせ、学校は保護者や付き添いの方からの報告をまとめていただき、100 件程度の報告があった。それについては警察や道路管理者の県土木事務所等と協力して、令和 5 年度中に概ね改善していく予定である。</p>
西田委員 大野所長	<p>コミュニティ・スクール研修会の実績について説明を求める。</p> <p>令和 3 年度は 2 回実施した。第 1 回研修会は、事業説明等について、第 2 回研修会は、多紀小学校運営協議会及び篠山中学校運営協議会からの実践報告という内容である。第 2 回はオンラインのみで実施し、市役所第 2 庁舎 303 会議室で撮影したものをそのまま YouTube で観ていただいた。</p>
西田委員	<p>コミュニティ・スクールは、丹波篠山市教育委員会の根幹をなす事業だと捉えている。各協議会に 10 万円ずつ委託金を出しており、僅かな金額だとしても主要事業だと思う。成立から年数が経過した。草創期があり、充実期を経て、今はもう一度原点に立ち返る時期になっているのではないかと思う。その時期にコロナ禍になった。極端にいうとコロナ禍で何もできなかった学校もあれば、工夫をしながらやっていた学校もある。更に、毎年同じ事業をくりかえしておけばよいとしている学校が見られがちな面もある。例えば、今田中学校と今田小学校は「ふるさと講演会」や「生き方を考える講演会」をされているが、事業名は毎年同じであっても、内容はその時に合った内容で、地域と連携して取り組まれており素晴らしいと思う。だが一方でそうでない学校運営協議会もあると思う。</p>
大野所長	<p>各学校運営協議会が課題として書いている、主催事業がどうであるとか、熟議を云々とか、コーディネーターをどうするというものは、以前からずっと課題である。それを改善するために何をするのかということが抜けていると思う。改善方法の一つとして研修会をしていくというのは、市教育委員会のできる取組であるので、研修会の工夫・改善をしていく。過去にも「熟議」について語ろうという研修会開催したこともある。研修会で市教育委員会から契機づけをしていかないと改善されない。コーディネーターについても、地域おこし協力隊の事務所に行き、地域でコミュニティ・スクールと連携していただきたいという依頼もしてきた。そういう視点をもって取り組んでほしい。大きな予算を使っているのに、それに見合ったように考えてほしい。</p> <p>また、コミュニティ・スクール研修会は教育委員も参加したいので案内いただきたい。</p> <p>いただいたご意見を参考に、研修会の内容を決定していく。</p>

山本委員	学校運営協議会は大事な組織である。地域の方が学校に意見をするのは難しい場合があるので、地域の方の声が聞けるような会にしてほしい。
丹後教育長	学校運営協議会は、本市の財産であり大事にしていきたい。「ふるさと教育」については、子どもたちが、地域の人材、文化、伝統と関わるなかで郷土愛を育てるといことが大きいものとなるが、「ふるさとキャリア教育」は、そういう視点も踏まえてふるさと教育を展開している。キャリア教育は、将来を見据えて必要な力を養うということで、単に職業選択ではなく、将来生きていく力をふるさと教育で培うものである。マンネリ化にならないよう、より発展した内容で継続的に取り組んでいく。学校運営協議会の意義を再確認して取り組んでいくことについて、また新たな視点を持って取り組んでいく呼びかけについては、自分自身もやっていく。
丹後教育長	報告4「令和3年度学校評価報告書について」学校教育課報告を求める。
浅田課長	《議案書に基づき報告》
中村委員	<p>学校独自の取組で不登校生徒が登校できるようになった報告や、コロナ禍でも積極的な工夫で前向きに学校経営をしている学校に対して、地域・保護者が感謝されている報告は大変ありがたい。</p> <p>コロナ禍で運動会、学習会、各学年行事の具体的な変更内容をもう少し知りたかった。</p> <p>「あいさつ」についての報告にもあるが、校内ではあいさつできるが、地域であいさつを交わせない様子が見受けられる。なぜ、あいさつが大切か本質も伝えて行ってほしい。</p> <p>小学校からの報告で、評価内に「いじめ事案について、1学期、組織対応の理解が全職員に浸透しておらず、対応が遅れる事案があった」とあるが、教育委員会ではその時点でのいじめ報告なされていたか。</p> <p>この評価の記入について、学校によって「成果が見られる項目」の記入が他校と違い、知りたい内容が不足している学校があった。記入の仕方について指導をお願いしたい。</p> <p>お願いになるが「分かりやすい授業」、「基礎学力の定着」は常に工夫改善して、生徒一人一人の学力の定着・向上に力を注いでほしいと思う。</p>
浅田課長	<p>評価項目については、各校長から様々な報告を受けているが、必要に応じて校長等への聞き取りをし、今後具体的な報告になるよう努める。</p> <p>いじめ事案については、毎月の報告及び発生時点でその都度迅速に教育委員会事務局へ報告をするようにしている。組織的対応の理解が全職員に浸透しておらず、対応が遅れる事案があったとの報告もあったが、それについての反省もしながら、いじめ解消100%を目指して教育委員会事務局も指導をしていく。</p>
西田委員	達成状況のABCD評定であるが、C評価をした校長がなく、よく達成できた

岸田次長	<p>の A、達成できたの B 評価がほとんどである。園も含めてであるが、全部 B 判定の学校もある。課題がないという学校があるのか。全て一様に B 評価なのか、本当に妥当なのか。最終的には目標管理に関わってくるが、評価について教育委員会としてはどのように考えているのか。</p> <p>この達成状況の記入については、C はやや課題が残る、D は改善を要するである。A、B は取組状況を記載するが、C、D については改善方策を中心に記述することになっている。保護者や生徒にアンケートをとり客観性を高めるようにしている。目標設定面談において、各学校の実態等を把握しながら指導助言をしていく。</p>
西田委員	<p>ある学校が記載されているとおり、コロナ禍のために十分に達成できなかったというのが正直な評価だと私は思う。年度によっては、C 評価が多いこともあるのではないかと。絶対的評価をある程度教育委員会事務局で持つておき、校長評価とズレがある場合は、教育委員会として指導していくというのは、法で定められた学校評価の最終的な主旨ではないかと思う。そのような報告で考えてほしい。</p>
丹後教育長	<p>報告 5「令和 3 年度幼稚園・こども園学校評価報告書について」保育教育課報告を求める。</p>
西嶋次長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
中村委員	<p>幼稚園・こども園の報告書作成は学校園長が行っていると把握しているが間違いないか。</p>
西嶋次長	<p>そのとおりである。</p>
中村委員	<p>しっかり園評価するためには、園長が園の様子が常に注視できる環境が必要かと思う。学校と園が繋がっている環境は大切にしていってほしい。</p> <p>園と小学校の連携、それから幼児期から児童期への発達や学びの連続性の確保は本当に大切なことなので、引き続きよろしく願います。</p> <p>「教育委員会としての支援策」として全て良い内容が記載されていた。特に、1 頁最後の教育要領における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」には感動した。全課で共有して市民に発信し続けてほしい。</p>
西嶋次長	<p>幼児期と小学校の接続については、5 月 20 日に丹波教育事務所主催で丹波市内で研修会があり、全幼稚園・全こども園から職員が参加することになっている。しっかり研修を受け、理解を深めていく。</p>
丹後教育長	<p>報告 6「小中学校児童生徒の問題行動等について」学校教育課報告を求める。</p>
岸田次長	<p>《議案書に基づき報告》</p>

垣内委員	この問題行動報告は、学校で把握をされた問題行動であり、関係各機関との連携で把握できた問題行動は報告されていない実情が見受けられる。学校以外で発生しているはずの問題行動について、学校でも把握をして定例教育委員会で報告されるようお願いしたい。もちろん学校の責任範囲もあると思うが、形だけの報告とならないよう、子どものための問題行動の把握だという考えで定例教育委員会で報告してほしい。
岸田次長	小さなトラブルでも学校から報告するよう求めているが、校長会を通じて周知していく。また報告を基に未然防止に努めていく。
丹後教育長	報告7「令和3年度4月小・中・特別支援学校定例校長会について」学校教育課報告を求める。
岸田次長	《議案書に基づき報告》
西田委員	「(1)学校経営に係る指導・支援について」、教育研究所に学校園経営指導主事3名が在職している。学校園経営指導主事は学校経営ビジョンヒアリングにも出席をして、学校経営方針を理解し、各学校に支援することがあれば支援をするという役割があると思う。ただ学校園経営指導主事独自の職務の記載がない。1頁3(2)の「教育研究所の指導主事等が」で読み替えられないこともないが、できれば、「校長がする学校経営に対して、校長経験のある学校園経営指導主事が支援する」というようなものを、(2)へ追記や項追加でも良いので記載いただきたい。根拠がないと学校園経営指導主事も指導・支援に入りにくいと思う。年度始めに方針があれば校長も学校園経営指導主事もお互い入っていきやすいと考える。
岸田次長	学校園経営指導主事は、今年度も学校長の目標設定面談にも出席し、指導支援もしていく。ご指摘いただいた部分についても各学校に周知していく。
西田委員	今実際に、学校園経営指導主事が、ある学校経営に入っているのもこれが根拠になっていると思うので、追加していただきたい。
丹後教育長	報告8「令和4年度4月保育園・幼稚園・こども園長会について」保育教育課報告を求める。
中村委員	「保育園・幼稚園・こども園長会報告」は、今回初めての報告であると思うが、今後も引き続き報告があるのか。校長会報告と園長会報告の内容が連動していれば、わかりやすいと感じた。 校長会報告と園長会報告の両方を見て気づいたが、園長会報告は、園児数一覧、預かり保育利用予定者数一覧、年間研修会の一覧、プロジェクトメンバー一覧等があり、全体像が分かって良かった。できれば「小・中・特別支援学校定例校長会報告」でも児童生徒数等の一覧、児童クラブ利用者数一覧があると良いと思う。

西田委員	「ふた葉プロジェクト」について、今年度はプロジェクトチームを組織せず、事務局のほうで企画立案し、まとめの段階に入るという説明があったが、もう少し具体的な説明を求める。
西嶋次長	今までプロジェクトチームを組織して検討してきた内容は主にコンセプトブックになるが、このコンセプトブックが完成し、各関係者や全園児への配布が完了した。丹波篠山の幼児教育が目指すところを1冊にまとめることができたということで、プロジェクトチームの大きな役割としては完結したと考えている。今後は、このコンセプトブックをどのように活用していくのか、配布だけでなくそれをどのように活用して子育てに活かしていくのか、考えることを充実させる方向で考えている。
西田委員	コンセプトブックをどのように活用していくのかは、事務局職員だけでなく、大きなプロジェクトチームではなくても現場職員も共に考えた方が良いのではないかと感じたのでまた検討いただきたい。
丹後教育長	報告9「令和3年度学校給食異物混入状況について」学校給食センター報告を求める。
石田所長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告10「学校給食65周年記念献立の提供について」学校給食センター報告を求める。
齋藤所長	《議案書に基づき報告》
西田委員	65周年記念献立は、配布する記念冊子にも掲載されているメニューなのか。
齋藤所長	記念献立は10頁から11頁に掲載している篠山まるごと井に、お祝いだんごを付けることになる。
丹後教育長	報告11「丹波篠山市立今田幼稚園・今田保育園在り方検討委員会の設置について」子育て企画課報告を求める。
竹見課長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告12「教育長報告」について報告する。 23頁から25頁は年度末から年度始めのスケジュールで、色々な場面で挨拶をする機会があった。 27頁は校長会資料である。「令和4年度丹波篠山の教育」であるが、これは校長会だけではなく、様々な研修会等でも報告している、「令和4年度丹波篠山がめざす方向性」を私なりにまとめたものである。

<p>丹後教育長</p>	<p>「2 令和の丹波篠山型学校教育」、あるいは「学校」をとり「令和の丹波篠山型教育」を進めていきたいと思っている。バックボーンになっているのは、令和3年1月26日に中央教育審議会が出した「令和の日本型学校教育」というものがある。それによると、日本型というのは知識、学びだけではなく、学校は子どもたちを生徒指導面も含めて総合的に育てていく、そういう日本の学校教育が非常に評価されている。その分教員の負担は増えていくというところは課題としてあるが、課題を克服しながらより「日本型学校教育」を進めていく。</p> <p>さらに見ていくと、「日本型学校教育」は、27頁2のとおり「少人数と一人一台端末・ICT環境の活用による『個別最適な学び』」、「体験や探究的な学びによる『協働的な学び』」、この二つは、今までも取り組んでいるが更に進めていく。さらに、少人数を活かした学びやICT環境を活かした学びというのは、本市において以前から自信を持って取り組んでいるものである。</p> <p>また、「ふるさと教育」を始めとした体験学習や探究的な学びも非常に進んでいる。となると、日本が目指すべき方向の「日本型教育」は、丹波篠山が先取りをしていることになる。新しいことではなく、今までやってきた取組を、これから将来に向けても自信を持ってやっていけばいいということを訴えるためにも、わかりやすい表示として、「丹波篠山の教育」の良さを、「令和の丹波篠山型学校教育」あるいは、「令和の丹波篠山型教育」として、いろんなところで発信していく。</p> <p>以上で、本日の審議は全て終了する。 これをもって、第1回定例教育委員会を終了する。</p>
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------